

平成28年8月15日
内閣府政策統括官（原子力防災担当）
福井県
京都府
滋賀県
関西広域連合

高浜地域における3府県及び関西広域連合との 合同原子力防災訓練の実施について

本原子力防災訓練は、平成27年12月に原子力防災会議において了承された「高浜地域の緊急時対応」に基づく広域避難等を検証するため、国、地方自治体、電力事業者等が合同で実施する訓練です。

1. 実施日：平成28年8月27日（土）

2. 訓練対象施設：関西電力株式会社 高浜発電所

3. 参加機関等：

政府機関：内閣府、海上保安庁、防衛省、原子力規制庁 等

地方公共団体：福井県、京都府、滋賀県、関西広域連合、福井県高浜町、小浜市、おおい町、若狭町、京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町、滋賀県高島市、福井県敦賀市、美浜町、越前市、鯖江市、越前町、京都府八幡市、兵庫県、兵庫県宝塚市、三田市、徳島県 等

原子力事業者：関西電力株式会社 等

関係機関：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 等

4. 実施場所：福井県庁、京都府庁、滋賀県庁、福井県高浜原子力防災センター、関西広域連合広域防災局（兵庫県庁）、福井県高浜町、小浜市、おおい町、若狭町、京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹波町、伊根町、滋賀県高島市、兵庫県宝塚市、三田市、丹波市 等

5. 訓練参加予定者：防災業務従事者 約2,000人（政府機関、地方公共団体職員等）

住民 【福井県】約3,850人

（避難訓練 約850人
屋内退避訓練等 約3,000人）

【京都府】約3,300人

（避難訓練 約450人
屋内退避訓練等 約2,850人）

【滋賀県】UPZ内住民なし

6. 訓練の概要：

(1) 事故想定

平成28年8月27日、関西電力(株)高浜発電所3号機が定格熱出力一定運転中、若狭湾沖における地震発生により外部電源が喪失し、原子炉が自動停止するとともに、全交流電源が喪失。その後原子炉冷却材が漏えいし、かつ非常用炉心冷却装置による注水不能により、全面緊急事態となる。さらに事態が進展し、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

(なお、4号機は地震発生により原子炉が自動停止した後、発生した直流電源系統の不具合を復旧し低温停止に移行し、安定となる。)

(2) 主な訓練内容

- ①災害対策本部の設置・運営等の初動対応訓練
- ②施設敷地緊急事態及び全面緊急事態を受けた実動訓練（府県内外避難の実施）
- ③避難退域時検査実施訓練及び安定ヨウ素剤配布訓練
- ④避難先施設における受入訓練 等

(3) 訓練のポイント

- 「高浜地域の緊急時対応」に基づく避難計画について、実効性の検証を行うとともに、訓練結果から教訓事項を抽出し、緊急時対応等の改善を図る。
- 福井県の住民が、京都府内に設置する避難退域時検査場所（綾部市）を經由し、避難先である兵庫県（宝塚市、三田市等）に避難する広域避難訓練の実施。
- 道路の寸断等の複合災害を想定した実動部隊等による住民避難の実施。

7. 報道関係者への情報提供

(1) 講評及び記者会見

訓練終了後、高浜原子力防災センターにおいて講評及び記者会見を実施。

8月27日（土）15：00予定（30分程度）

(2) プレス発表資料（模擬）の配布

事故の進展や住民避難に関するプレス発表資料（模擬）を適宜高浜原子力防災センターで配布する。

(問い合わせ先)

内閣府政策統括官（原子力防災担当）付

参事官（地域防災・訓練担当）付地域原子力防災推進官 江川
担当 阪口、橋本

電話：03-3581-3463（直通）

福井県危機対策・防災課

電話：0776-20-0236（直通）

京都府原子力防災課

電話：075-414-4473（直通）

滋賀県防災危機管理局原子力防災室

電話：077-528-3445（直通）

関西広域連合広域防災局広域企画課

電話：078-362-9806（直通）

【PAZ : 235 人】

府県	区分	避難元	対象者 (人数)	避難先
福井県	住民	高浜町(青郷・高浜)	80名	宝塚市役所 (兵庫県宝塚市)
	学校・保育所	高浜小学校・高浜保育所	75名	※1 丹波の森公苑 (兵庫県丹波市)
	住民	高浜町(内浦)	45名	松陵中学校 (敦賀市)
	病院・福祉施設	若狭高浜病院・若狭高浜 病院附属老健施設	10名	市立敦賀病院(敦賀市) リバーサイド気比の杜(敦賀市)
	在宅避難行動 要支援者	内浦地区他2地区	10名	美浜町保健福祉センター (美浜町) 若狭高浜病院(高浜町) (放射線防護施設)
京都府	住民	舞鶴市(成生)	10名	西総合会館(舞鶴市)
	在宅避難行動 要支援者	舞鶴市(大山)	5名	大浦会館(舞鶴市)

【UPZ : 1,040 人】

府県	区分	避難元	対象者 (人数)	安全ヨウ素剤 配布地点	避難退域時検査 場所	避難先	
福井県	住民	高浜町(和田)	45名	保健福祉センター	綾部PA (あやべ球場) (京都府綾部市)	三田市消防本部 (兵庫県三田市)	
		おおい町 (本郷・佐分利)	40名	ふるさと交流センター		※1 丹波の森公苑 (兵庫県丹波市)	
		おおい町(名田庄)	25名	里山文化交流センター		美浜町役場 敦賀港(敦賀市)	東浦小中学校 (敦賀市)
		小浜市	345名	食文化館(小浜市) 県若狭合庁		美浜町役場	今立体育センター(越前市) 吉川小学校(鯖江市) 越前体育館(越前町)
		若狭町	55名	上中庁舎			今立体育センター(越前市) 越前体育館(越前町)
	学校・ 保育所	西津小学校・雲浜小学校、 小浜小学校 (小浜市)	80名	県若狭合庁	美浜町役場	今立体育センター(越前市) 越前体育館(越前町)	
		三宅保育所(若狭町)	5名	上中庁舎		萩の苑(敦賀市)	
		病院・ 福祉施設	楊梅苑 (おおい町 介護老人福祉施設)	20名		ふるさと交流センター	避難先にてスクリーニング・ 除染を実施
	公立小浜病院 (小浜市)		県若狭合庁		若越みどりの村(越前市)		
	やすらぎの郷 (小浜市 障害者支援施設) 松寿苑 (若狭町 介護老人福祉施設)		上中庁舎		第三光が丘ハウス(越前町)		
京都府	住民	舞鶴市(大浦)	150名	大浦小学校	丹波自然運動公園	※2 丹波自然運動公園 (京丹波町)	
		綾部市 (睦寄町内6地区)	90名	上林いきいきセンター		八幡市民体育館 (八幡市)	
		宮津市(上宮津)	110名	旧上宮津小学校		※2 丹波自然運動公園 (京丹波町)	
		福知山市(有路下)	20名	有路下体育館			
	京丹波町(和知)	30名	京丹波町和知支所				
	学校・ 保育所	平保育所 (舞鶴市)	5名	大浦小学校			
	病院・ 福祉施設	まいづる作業所 (舞鶴市 障害者支援施設)	10名	大浦小学校			
東舞鶴医誠会病院 (舞鶴市)		10名	東舞鶴医誠会病院				

※1 経由地

※2 避難退域時検査場所

高浜地域3府県・関西広域連合との合同訓練シナリオ案

- 6 : 0 0 地震発生（想定）
- 8 : 0 0 訓練開始
- 8 : 0 0 施設敷地緊急事態（PAZ 要支援者避難要請）
- 8 : 1 0 現地事故対策連絡会議（PAZ 要支援者の避難実施方針の確認）
- 8 : 5 5 全面緊急事態
- 9 : 0 0 緊急事態宣言、PAZ 住民避難・UPZ 屋内退避指示
- 9 : 1 0 合同対策協議会①（PAZ 住民の避難実施方針の確認）

初めてOIL2 超が確認されてから約24時間経過後

- 9 : 3 5 合同対策協議会②（OIL2 超過対象区域の一時移転の実施方針の決定）
- 1 0 : 0 0 OIL2 超過対象区域住民の一時移転指示
＜避難状況を継続的に確認＞
- 1 4 : 0 0 合同対策協議会③（住民の避難状況のとりまとめ）
- 1 5 : 0 0 訓練終了 講評及び会見

平成28年度高浜地域における内閣府・3府県及び 関西広域連合合同原子力防災訓練の実施について

平成28年8月15日
京都府原子力防災課
075-414-4473

京都府では、内閣府・福井県等と合同で、関係機関の協力を得て、京都府立丹波自然運動公園等において、関西電力株式会社高浜発電所での原子力災害を想定した訓練を初めて実施しますので、当日のご取材をよろしくお願いいたします。

記

1 訓練実施日（時間は別紙のとおり）

平成28年8月27日（土）

2 主な訓練内容（詳細は別紙のとおり）

（事故想定）

若狭湾沖の地震発生により外部電源が喪失し、高浜発電所3号機の原子炉が自動停止するとともに、全交流電源が喪失。

その後、原子炉冷却材の漏えい、非常用炉心冷却装置による注水不能により全面緊急事態となる。

更に事態が進展し、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

（1）原子力災害対策本部等運用訓練（府庁、高浜オフサイトセンター）

- ・ 原子力災害合同対策協議会と連動した京都府原子力災害対策本部の運用

（2）情報伝達訓練

（3）緊急時モニタリング訓練（舞鶴・綾部市域、舞鶴市大浦半島沖）

- ・ 走行サーベイ及び海上モニタリング

（4）住民避難訓練・安定ヨウ素剤緊急配布訓練

ア 舞鶴市住民 約160人

(ア) PAZに準じる地域（成生地区） 約10人

陸路避難ができない場合を想定して船舶により避難（成生地区→舞鶴西港）

(イ) UPZ（大浦地区） 約150人

バスにより避難（大浦小学校→丹波自然運動公園）

イ 綾部市住民 約90人

バスにより避難（睦寄町内6地区→丹波自然運動公園）

ウ 宮津市住民 約110人

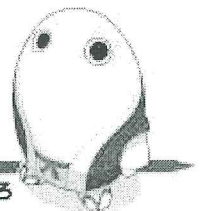
バスにより避難（旧上宮津小学校→丹波自然運動公園）

エ 福知山市住民 約20人

バスにより避難（有路下体育館→丹波自然運動公園）

オ 京丹波町住民 約30人

バスにより避難（京丹波町和知支所→丹波自然運動公園）



(5) 広域避難訓練

ア 宮津市住民 約40人

バスにより広域避難（丹波自然運動公園→八幡市民体育館）

(6) 避難行動要支援者避難訓練（舞鶴市内、府庁）

- ・ 在宅要支援者を福祉車両で放射線防護対策施設まで搬送（舞鶴市^{おおやま}大山地区→大浦会館）
- ・ 病院の入院患者を病院車両により避難退域時検査場所まで搬送（東舞鶴医誠会病院→丹波自然運動公園）
- ・ 福祉施設通所者及び保育園児を避難時集結場所まで誘導（各施設→大浦小学校）

(7) 急病者救急搬送訓練（舞鶴市内）

避難時集結場所に避難した住民を医療機関まで搬送

(8) 放射線防護対策設備稼働訓練（舞鶴市・綾部市・伊根町内施設）

(9) 避難退域時検査・除染訓練（丹波自然運動公園）

(10) 京都府原子力防災専門委員による講習会（丹波自然運動公園）

3 府内訓練の参加機関・人数

約50機関 約3,800人〔うち、住民(※)約3,300人〕

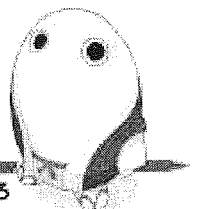
※ 屋内退避訓練参加者を含む。

京都府警察本部、京都府舞鶴・綾部・宮津・福知山・南丹警察署、舞鶴市消防本部、東大浦・西大浦消防団、綾部市消防本部、綾部市消防団、宮津与謝消防組合消防本部、宮津市消防団、八幡市、関西広域連合、徳島県、京都地方气象台、自衛隊京都地方協力本部、陸上自衛隊、第八管区海上保安本部、日本赤十字社京都府支部、日本赤十字社舞鶴赤十字病院、綾部市立病院、福知山市民病院、一般社団法人与謝医師会、医療法人医誠会東舞鶴医誠会病院、社会福祉法人与謝郡福祉会、社会福祉法人まいづる福祉会まいづる作業所、社会福祉法人長雲福祉会平保育園、公益社団法人京都府放射線技師会、一般社団法人京都府薬剤師会、関西電力株式会社 ほか

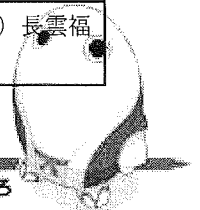
4 主催

福井エリア地域原子力防災協議会（内閣府、福井県、京都府、滋賀県、関西広域連合）、関係市町（福井県高浜町、小浜市、おおい町、若狭町、京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、南丹市(※)、京丹波町、伊根町、滋賀県高島市）

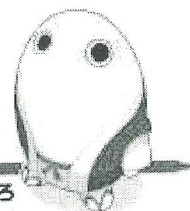
※ 南丹市は9月4日の京都府総合防災訓練の原子力災害対応訓練に参加



訓練	内 容	場 所	時 間	主な参加機関
(1)原子力災害対策本部等運用訓練	京都府原子力災害対策本部の設置・運営、テレビ会議による合同対策協議会への参画	京都府職員福利厚生センター第1～3会議室	8:50～10:00	知事、副知事、各部長、自衛隊京都地方協力本部、京都地方気象台、関西電力(株)ほか
(2)情報伝達訓練	原子力事故の通報連絡、関係市町への避難指示等の連絡等	関係庁舎	8:00～10:00	京都府、京都府警察本部、関西広域連合、徳島県、UPZ市町、関西電力(株)
(3)緊急時モニタリング訓練	モニタリングカーによる走行サーベイ(測定)	舞鶴市域、綾部市域	7:30～13:30	京都府、関西電力(株)
	海上保安庁艦船による海上モニタリング	舞鶴市大浦半島沖	7:30～12:00	京都府、第八管区海上保安本部、関西電力(株)
(4)住民避難訓練・安定ヨウ素剤緊急配布訓練	舞鶴市成生地区の住民が、一時集合場所から船舶により避難	成生漁村センター【一時集合場所】	9:00～9:20	舞鶴市、関西電力(株)
		舞鶴西港【着岸場所】	10:50～11:00	
	地域の避難時集結場所等で安定ヨウ素剤を配布し、避難退域時検査場所(丹波自然運動公園)へ避難	大浦小学校(舞鶴市)	10:00～11:00	京都府、舞鶴市、綾部市、宮津市、福知山市、京丹波町、舞鶴・綾部・宮津・福知山・南丹警察署、(一社)与謝医師会、(一社)京都府薬剤師会
		綾部市睦寄町内公民館(長野、志古田、山内、鳥垣、有安、草壁)【避難時集結場所】	10:00～10:15	
		上林いきいきセンター【安定ヨウ素剤配布場所】	10:25～10:55	
		旧上宮津小学校(宮津市)	9:00～10:30	
		有路下体育館(福知山市)	10:00～10:30	
京丹波町和知支所	10:00～10:30			
(5)広域避難訓練	宮津市の住民が避難先の八幡市へ避難	八幡市民体育館	13:30～14:30	宮津市、八幡市
(6)避難行動要支援者避難訓練	在宅要支援者を福祉車両で放射線防護対策施設まで搬送	大山公民館→大浦会館	8:30～9:00	舞鶴市
	京都府災害時要配慮者避難支援センターと東舞鶴医誠会病院との間で避難に係る情報連絡を行い、入院患者を病院車両で避難退域時検査場所(丹波自然運動公園)まで搬送	京都府庁(健康福祉部健康福祉総務課内)、東舞鶴医誠会病院、京都府立丹波自然運動公園	8:30～12:00	京都府、(医)医誠会
	福祉施設通所者及び保育園児の保護者への引き渡しができない場合を想定して避難時集結場所まで誘導	まいづる作業所→大浦小学校	10:00～11:00	舞鶴市、(社福)まいづる福祉会
平保育園→大浦小学校		10:00～11:00	舞鶴市、(社福)長雲福祉会平保育園	



訓練	内容	場所	時間	主な参加機関
(7) 急病者救急搬送訓練	避難時集結場所に避難した住民が体調不良になったことを想定して医療機関まで搬送	大浦小学校→医療機関(舞鶴市内)	10:15～10:45	舞鶴市
(8) 放射線防護対策設備稼働訓練	放射線防護対策として設置した陽圧装置の操作手順を確認	大浦会館(舞鶴市)	9:30～10:00	舞鶴市
		奥上林公民館(綾部市)	8:30～9:30	綾部市、綾部市消防本部、綾部市消防団、八代・川原・小仲自治会の代表者
		特別養護老人ホーム長寿苑(伊根町)	10:00～12:00	(社福) 与謝郡福祉会
(9) 避難退域時検査・除染訓練	ゲート型モニタによる車両避難退域時検査、車両除染、住民に対する避難退域時検査、除染	京都府立丹波自然運動公園	10:30～12:30	京都府、陸上自衛隊第7普通科連隊、陸上自衛隊第3特殊武器防護隊、(一社)京都府医師会、日本赤十字社京都府支部、(公社)京都府放射線技師会、関西電力(株)
(10) 京都府原子力防災専門委員による講習会	原子力防災についての講習会	京都府立丹波自然運動公園	11:15～12:15	京都府

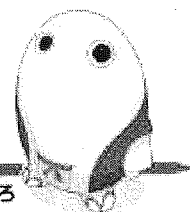


丹波自然運動公園(メイン会場)案内図



【自動車取材に来られる場合の注意事項】

- ・ 北門は訓練関係車両出入口ですので、正門から入場してください。



平成28年度 原子力防災訓練の概要 (8/27、8/28)

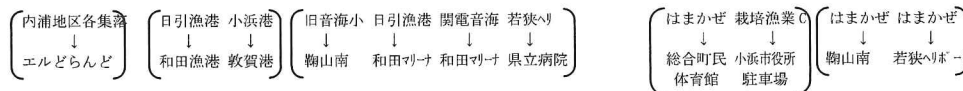
1 広域避難訓練 約1,000人 (参加者内訳は別添のとおり)

2日間かけて高浜・大飯両地域の訓練を実施することにより、両地域のPAZ圏およびUPZ圏全ての市町(高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、美浜町)において広域避難訓練を実施

- ①初めて県外(兵庫県(宝塚市、三田市、丹波市))へ避難 約240人 (PAZ 155人、UPZ 85人)
※丹波市…丹波の森公苑を避難中継所(車からバスへの乗換え、避難先への振分け場所)として活用
- ②県内避難先施設※まで過去最大規模の避難 約760人 (PAZ 145人、UPZ 615人)
※初めて嶺北市町への避難を実施(大野市、越前市、鯖江市、越前町)
- ③避難先施設における受入訓練を実施 20箇所(一般住民・児童園児の受入 10箇所、入院患者・入所者の受入 10箇所)
※受入訓練…受付、スクリーニング確認、健康チェック、非常食の提供 等

④陸・海・空自衛隊、海保庁による住民避難を実施 約110人(車両13台、船舶3隻、ヘリ6機)

[高浜] 車両8台 船舶3隻 ヘリ3機 (住民約75人) [大飯] 車両5台 ヘリ3機 (住民約35人)



⑤避難経路上における安定ヨウ素剤の配布 8箇所 約700人

※ UPZ 避難者全員への配布を実施

- ※ 実施場所 [高浜] 保健福祉センター(高浜)、ふるさと交流センター(おおい)、里山文化交流センター(おおい)
食文化館(小浜)、県若狭合庁(小浜)、上中庁舎(若狭)
[大飯] 美浜西小学校(美浜)、北西郷公民館(美浜)

⑥県外、県内におけるスクリーニング・除染の実施 約700人

※ UPZ 避難者全員がスクリーニング場所を經由

- ※ 実施場所 [高浜] ・あやべ球場(京都府) 85人(県外で初めて実施)
・美浜町役場 490人(多数の住民対応を想定)
・その他 40人(船舶避難は敦賀港で実施、ヘリ避難の小浜病院患者は県立病院で実施)
- [大飯] ・南条 SA 周辺施設(南条勤労者体育センター) 85人

2 屋内退避訓練等 約4,000人

自宅等における屋内退避、家屋倒壊により屋内退避できない住民の指定避難所への退避などの訓練を実施

- ①各住民が自宅等で屋内退避行動(戸締、情報収集、非常時持出品準備)を実施
- ②家屋倒壊により屋内退避できない住民が指定避難所へ退避
- ③各区長等から市町災害対策本部への通報連絡の実施 等

3 複合災害対応訓練（熊本地震を受けた対応）

複合災害時における実動部隊等への対応の要請・実施

- ①【高浜】崖崩れ等による通行不能箇所（舞鶴野原港高浜線）に対する障害物排除（陸上自衛隊）
- ②車両（陸自）、船舶（海自、海保）、ヘリ（陸自、海自、空自、海保）による住民避難【再掲】
- ③家屋倒壊により屋内退避できない住民が指定避難所へ退避【再掲】

4 関係機関初動対応訓練

県庁、市町村庁舎、高浜 OFC、大飯 OFC における災害対策本部等の設置、運営訓練

①福井県災害対策本部会議（県庁）	第1回	8:00～8:30	
福井県現地災害対策本部会議（OFC）	第2回	9:00～9:20	
	第3回	9:35～10:00	
②国・現地事故対策連絡会議（OFC）		8:10～8:20	
③国・原子力災害合同対策協議会（OFC）	第1回	9:10～9:20	
	第2回	9:35～9:50	
	第3回	14:00～14:20	（1日目 高浜）
	〃	13:00～13:20	（2日目 大飯）

5 その他

上記訓練のほか、発電所事故制圧訓練（全交流電源喪失対応訓練、緊急事態支援組織によるロボット搬入・操作訓練）、緊急時モニタリング訓練（OFC、発電所 30 km圏）、警察による主要交差点等での交通整理・避難誘導、映像送信、海上警戒などの訓練を実施

6 事故想定

発電所定格熱出力一定運転中、若狭湾沖における地震発生により外部電源が喪失し、原子炉が自動停止するとともに、全交流電源が喪失。その後原子炉冷却材が漏えいし、かつ非常用炉心冷却装置による注水不能により、全面緊急事態となる。さらに事態が進展し、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

別添 広域避難訓練 参加者内訳

<PAZ : 300人>

高浜地域	一般住民	高浜町 (青郷・高浜)	80人
		〃 (内浦)	45人
	学校・保育所	高浜小学校、高浜保育所	75人
	病院・福祉施設	若狭高浜病院 若狭高浜病院附属老健施設	10人
在宅要支援者	高浜町 (青郷・高浜・内浦)	10人	

県外 宝塚市 (宝塚市役所) ※最寄りの避難施設の確認を実施
松陵中学校 (敦賀市)
県外 丹波市 (丹波の森公苑) ※避難先バスへの乗換訓練を実施
市立敦賀病院 (敦賀市)
リバーサイド 気比の杜 (敦賀市)
美浜町保健福祉センター (美浜町)
若狭高浜病院 (高浜町)

大飯地域	一般住民	おおい町 (大島)	30人
		小浜市 (内外海)	30人
	学校	大島小学校 (おおい町)	15人
	在宅要支援者	おおい町 (大島) 小浜市 (内外海)	5人

栗野中学校 (敦賀市)
武生商業高校 (越前市)
栗野中学校 (敦賀市)
敦賀市福祉総合センター (敦賀市)

<UPZ : 700人>

高浜地域	一般住民	高浜町 (和田)	45人
		おおい町 (本郷・佐分利)	40人
		〃 (名田庄)	25人
		小浜市 (全12地区)	345人
		若狭町 (三宅)	55人
	学校・保育所	小浜小学校、西津小学校 雲浜小学校 (小浜市)	80人
		三宅保育所 (若狭町)	5人
		病院・福祉施設	楊梅苑 (おおい町・介護老人福祉施設)
	公立小浜病院 (小浜市)		5人
	やすらぎの郷 (小浜市・障害者支援施設)		5人
松寿苑 (若狭町・介護老人福祉施設)	5人		

県外 三田市 (三田市消防本部) ※最寄りの避難施設の確認を実施
県外 丹波市 (丹波の森公苑) ※避難先バスへの乗換訓練を実施 ※10人は避難施設の確認を実施
東浦小中学校 (敦賀市)
今立体育センター (越前市)
吉川小学校 (鯖江市)
越前体育館 (越前町)
今立体育センター (越前市)
越前体育館 (越前町)
萩の苑 (敦賀市・養護老人ホーム)
福井県立病院 (福井市)
若越みどりの村 (越前市・障害者支援施設)
第三光が丘ハウス (越前町・介護老人福祉施設)

大飯地域	一般住民	美浜町 (美浜西)	60人
	学校	美浜西小学校 (美浜町)	20人
	福祉施設	やはず苑 (美浜町・地域密着型特養)	5人

富田公民館 (大野市)
福井県済生会聖和園 (大野市・介護老人福祉施設)

※参加人数については、概ねの人数を記載

※学校・保育所については、避難実施前に保護者への引渡し訓練を実施

8 / 27 (土) 原子力防災訓練 (高浜：住民避難) 時系列 <PAZ>

対象住民		8:00 (施設敷地緊急事態)	9:00 (全面緊急事態)	10:00 (放射性物質放出)	11:00	12:00
学校等	高浜小学校 高浜保育所		バス ↑	丹波の森公園		
	若狭高浜病院	避難開始	救急車・福祉車両 ↑	敦賀病院		
病院等	" 附属老健施設		福祉車両 ↑	リバーサイド 気比の杜		
	内浦地区 (音海)	内浦公民館 自宅	音海小 ↑ ヘリ ↑ 美浜保健福祉C ↑ 救急車 ↑ 美浜南 ↑			
住宅要支援者	内浦・青郷地区	内浦公民館 自宅	福祉車両 ↑ 福祉車両 ↑			
	高浜地区	自宅	救急車 ↑ 高浜病院			
一般住民	内浦地区 (音海)		音海小 (清泉寺前 駐車場) ↑ 高機自動車 ↑ エルどらんど ↑ 高機自動車 ↑ 松陵中学校			
	内浦地区		関電音海 駐車場 ↑ ヘリ ↑ 香家和田 トリリーナ ↑ バス ↑			
	内浦地区		日引漁港 ↑ 船舶 ↑ 日引漁港 ↑ ヘリ ↑ エルどらんど ↑ 高機自動車 ↑ 自家用車 ↑			
	青郷・高浜地区	青郷公民館 高浜小 自宅	バス ↑ 自家用車 ↑	丹波の森 公園 ↑ バス ↑ 宝塚市役所		

対象住民	9:00 (全面緊急事態)	10:00 (放射線物質放出)	11:00	12:00	13:00
学校等	引渡し	避難開始	バス バス バス	バス バス バス	バス バス
	小浜小、西津小、雲浜小、三宅保育所 (若狭)	バス バス バス	バス バス バス	バス バス バス	バス バス
病院等	屋内退避	避難開始	バス バス バス	バス バス バス	バス バス
	楊梅苑 (おおい) 公立小浜病院 (小浜)	バス バス バス	バス バス バス	バス バス バス	バス バス
一般住民	※家屋倒壊 保健福祉Cへ避難	屋内退避	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車
	高浜町 (和田) おおい町	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車
一般住民	屋内退避	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車
	小浜市 若狭町	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車	バス、自家用車 バス、自家用車 バス、自家用車

平成28年度

高浜地域における内閣府・3府県及び
関西広域連合合同原子力防災訓練

主 催

京都府・福知山市・舞鶴市・綾部市・

宮津市・京丹波町・伊根町

平成28年度 高浜地域における内閣府・3府県及び 関西広域連合合同原子力防災訓練実施要領

1 目的

京都府地域防災計画及び住民避難計画並びに平成27年12月に原子力防災会議で決定された「高浜地域の緊急時対応」の実効性を確認・検証するため、住民の参加を得て、総合的な原子力防災訓練を実施するとともに、原子力防災対策の啓発を図ることにより、原子力災害時の被害軽減を目的とする。

2 主催

京都府、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹波町、伊根町

3 日時

平成28年8月27日(土) 8:00~15:00

4 想定

若狭湾沖の地震発生により外部電源が喪失し、高浜発電所3号機の原子炉が自動停止するとともに、全交流電源が喪失。

その後、原子炉冷却材の漏えい、非常用炉心冷却装置の注水不能により全面緊急事態となる。

更に事態が進展し、放射性物質が放出され、その影響が発電所周辺地域に及ぶ。

5 参加人数・参加機関

約50機関、約3,800人(うち住民※約3,300人)

※屋内退避訓練参加者を含む。

6 主な訓練実施場所

住民避難訓練等：大浦小学校【舞鶴市】、綾部市睦寄町内6地区公民館・上林いきいきセンター【綾部市】、
旧上宮津小学校【宮津市】、有路下体育館【福知山】、京丹波町和知支所【京丹波町】

避難退域時検査・除染訓練等：京都府立丹波自然運動公園【京丹波町】

避難行動要支援者避難訓練：大浦会館【舞鶴市】、東舞鶴医誠会病院【舞鶴市】

広域避難訓練：八幡市民体育館【八幡市】

放射線防護対策設備稼働訓練：大浦会館【舞鶴市】、奥上林公民館【綾部市】、
(特養)長寿苑【伊根町】

7 実施内容

(1) 情報伝達訓練

ア 目的

緊急時における原子力防災関係機関相互の通信連絡体制の確立を図る。

イ 参加機関

京都府(原子力防災課、山城広域振興局企画総務部、南丹広域振興局企画総務部、中丹広域振興局企画総務部、丹後広域振興局企画総務部)、京都府警察(警備第一課、南丹警察署、綾部警察署、福知山警察署、舞鶴警察署、宮津警察署)、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、南丹市、京丹波町、伊根町、八幡市、宮津与謝消防組合消防本部、関西広域連合、徳島県、原子力規制庁高浜原子力規制事務所、気象庁京都地方気象台、関西電力(株)

ウ 訓練内容

- ① 関西電力(株)から関係機関に事故の状況を伝達
- ② 気象庁京都地方気象台から京都府に気象状況を伝達
- ③ 京都府、関西広域連合・徳島県及び関係市町が住民の広域避難受入を連絡・調整

(2) 緊急時モニタリング訓練

ア 目的

施設敷地緊急事態、全面緊急事態を経て、放射性物質の放出・拡散に至る過程で、京都府モニタリ

ング本部及び現地モニタリング拠点を設置し、原子力規制庁及び関係県と連携した緊急時モニタリング体制の実効性を検証するとともに、要員のモニタリング技術の向上を図る。

イ 参加機関

京都府（環境管理課、中丹東保健所、保健環境研究所）、関西電力(株)、海上保安庁第八管区海上保安部

ウ 訓練概要

- ①原子力規制庁（緊急時モニタリングセンター）・関係県との情報伝達・連携行動訓練を実施
- ②中丹地域においてモニタリングカーによる緊急時モニタリング等を実施
- ③海上保安庁の協力を得て舞鶴市成生沖において海上モニタリングを実施

(3) 住民避難訓練

ア 目的

緊急時における住民の屋内退避・避難誘導を迅速かつ的確に実施する。

イ 参加機関

京都府（南丹広域振興局企画総務部、中丹広域振興局企画総務部、丹後広域振興局企画総務部）、京都府警察（警備第一課、南丹警察署、綾部警察署、福知山警察署、舞鶴警察署、宮津警察署）、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹波町

ウ 訓練内容

- ①屋内退避及び避難指示の発表後、住民が屋内退避及び避難の行動を開始
- ②福知山市有路下地区、舞鶴市大浦地区一帯、綾部市陸寄町内6地区、宮津市上宮津地区及び京丹波町和知地区の住民が、避難時集結場所等（小学校、公民館等）に集合し、バスで避難退域時検査場所まで避難
- ③警察による避難者の誘導等を実施

(4) 安定ヨウ素剤緊急配布訓練

ア 目的

福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市及び京丹波町における安定ヨウ素剤緊急配布計画の実効性を確認及び検証するとともに、緊急時の安定ヨウ素剤の取り扱いについて、住民に啓発することを目的とする。

イ 参加機関

京都府（医療課、南丹保健所、中丹東保健所、中丹西保健所、丹後保健所）、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹波町、市立福知山市民病院、舞鶴赤十字病院、綾部市立病院、（一社）京都府薬剤師会、（一社）与謝医師会、宮津市消防団

ウ 訓練内容

- ①保管場所から配布場所（避難時集結場所等）までの安定ヨウ素剤の運搬
- ②配布場所等に集合した住民に、保健師、薬剤師等から安定ヨウ素剤の服用の目的、効果、服用対象者、服用方法、副作用等について説明
- ③保健師等により、服用不適切者等の把握のための簡易問診を実施の上、住民に対し安定ヨウ素剤（代替品）を配布

(5) 広域避難訓練

ア 目的

「京都府原子力災害に係る広域避難要領」に基づく広域避難を実施し、手順を確認・検証する。

イ 参加機関

宮津市、八幡市

ウ 訓練内容

①宮津市の住民が避難退域時検査場所から予め受入調整ができていない八幡市まで避難

②避難所（八幡市民体育館）において、通過証の確認など受入訓練を実施

(6) 避難行動要支援者避難訓練

ア 目的

医療機関等における、原子力災害時の通信連絡手順、入院患者、在宅要支援者の避難及び屋内退避に係る手順等を確認し、入院患者等の避難措置の円滑な実施を図る。

イ 参加機関

京都府（健康福祉総務課、介護・地域福祉課、医療課、中丹東保健所）、舞鶴市、（医）医誠会、（社福）まいづる福祉会、（社福）長雲福祉会平保育園

ウ 訓練内容

①京都府災害時要配慮者避難支援センター運用訓練

京都府災害時要配慮者避難支援センターを設置し、原子力災害時に支援を要する要配慮者の情報収集や避難先の調整

②医療施設避難訓練

京都府災害時要配慮者避難支援センターと東舞鶴医誠会病院との間で避難に係る情報連絡を行い、入院患者を病院車両で避難退域時検査場所まで搬送

③福祉施設等避難訓練

まいづる作業所の通所者及び平保育園の園児が保護者へ引き渡しができない場合を想定して避難時集結場所（大浦会館）まで誘導。また、在宅要支援者を福祉車両で放射線防護対策施設（大浦会館）まで搬送

(7) 放射線防護対策設備稼働訓練

ア 目的

放射線防護対策として設置した陽圧装置の操作手順を確認する。

イ 参加機関

舞鶴市、綾部市、伊根町、（特養）長寿苑

ウ 訓練内容

①大浦会館、奥上林公民館、（特養）長寿苑において陽圧装置の操作手順を確認

②室内が陽圧化されたことを確認

(8) 避難退域時検査・除染訓練

ア 目的

避難退域時検査場所の運営及び検査、除染を実施することにより、関係職員の技術向上及び住民への理解促進を図る。

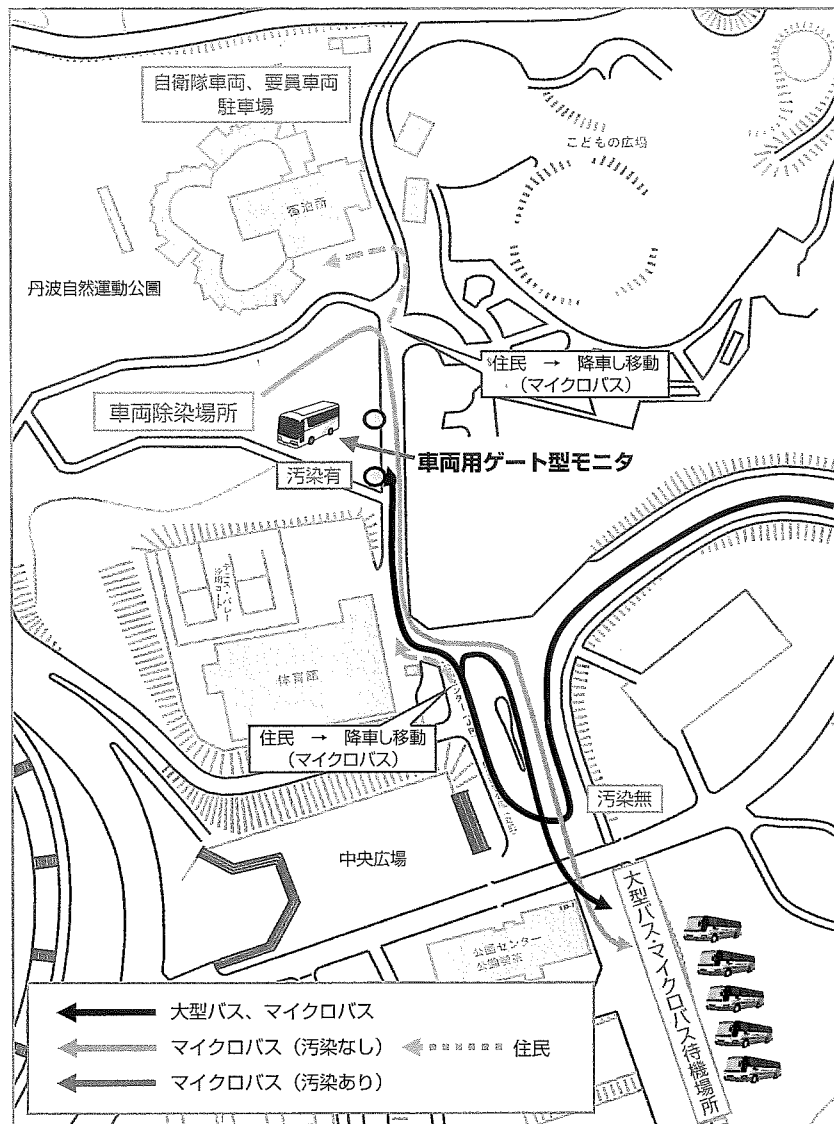
イ 参加機関

京都府（原子力防災課、医療課、中丹西保健所）、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹波町、南丹警察署、陸上自衛隊（第7普通科連隊、第3特殊武器防護隊）、日本赤十字社京都府支部、舞鶴赤十字病院、（公社）京都府放射線技師会、関西電力（株）

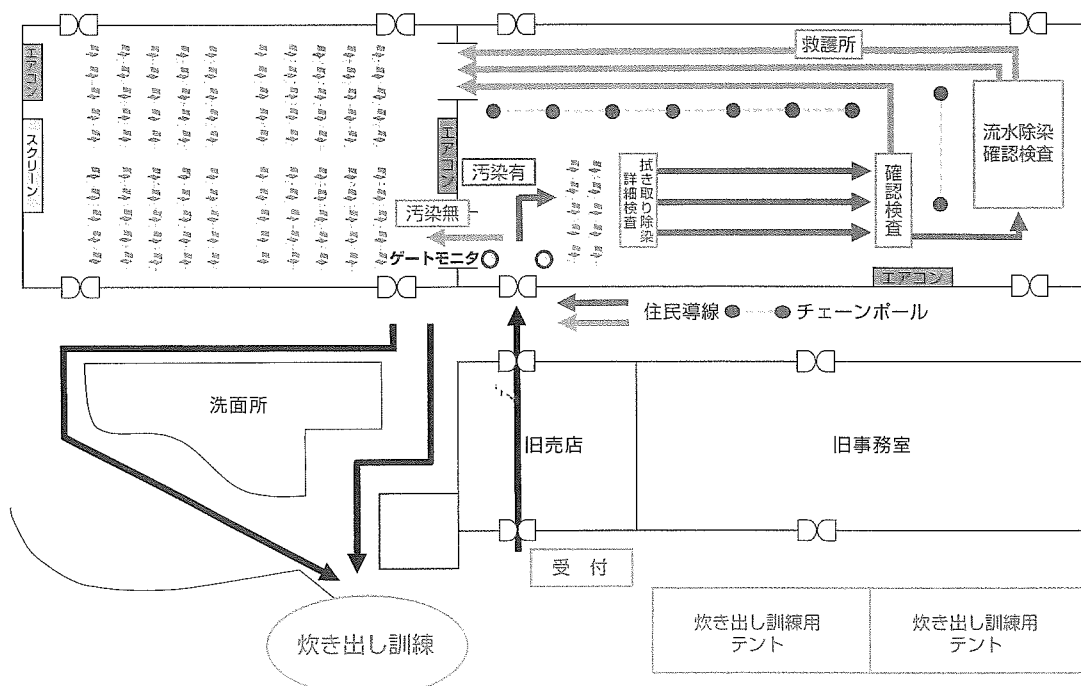
ウ 訓練内容

丹波自然運動公園に避難退域時検査場所を設置し、避難した車両及び住民への検査・除染を実施

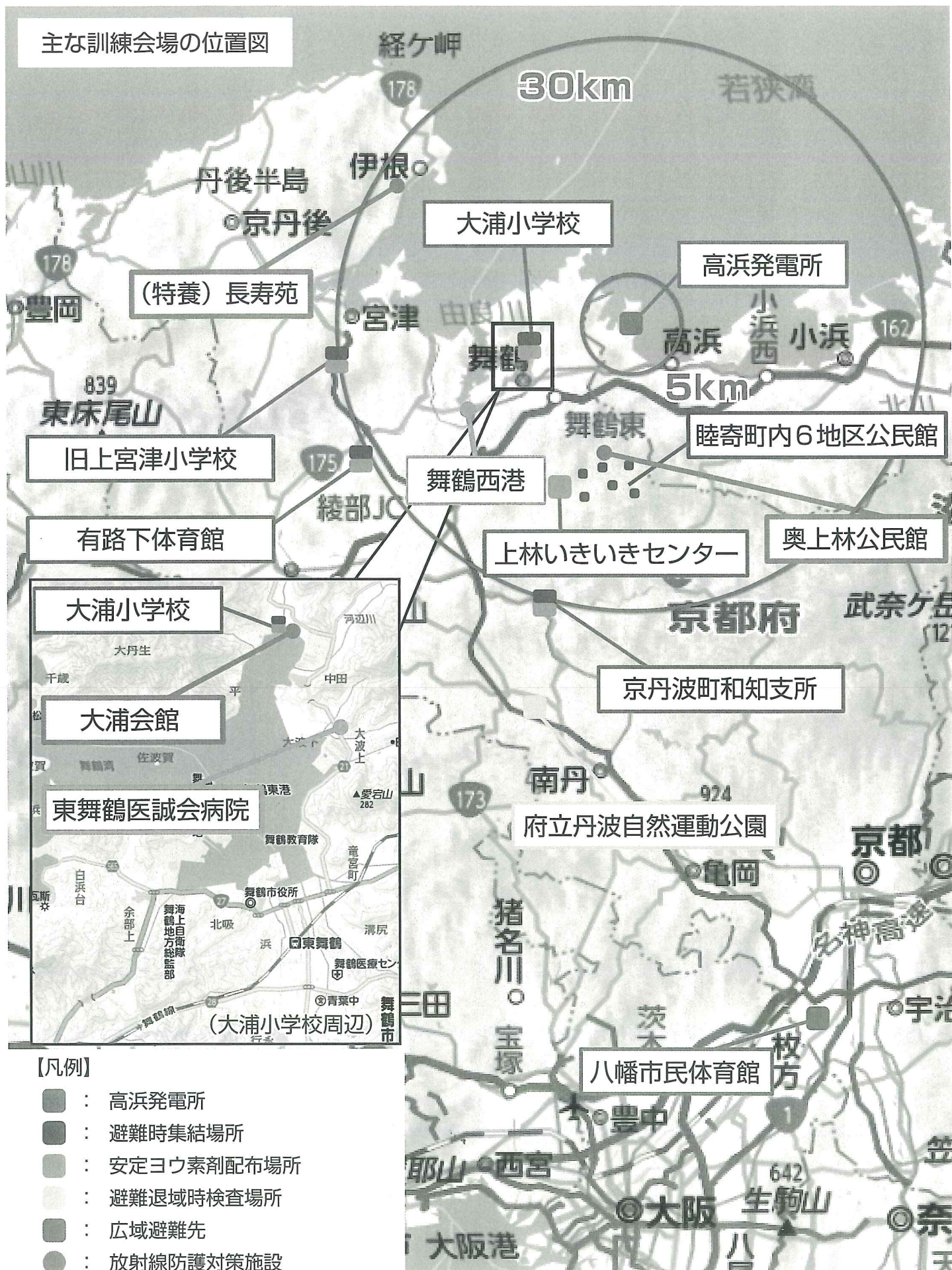
避難退域時検査・除染訓練会場 レイアウト
(丹波自然運動公園)



避難退域時検査・除染訓練等 会場レイアウト
(丹波自然運動公園 旧宿泊棟)



主な訓練会場の位置図



【凡例】

- : 高浜発電所
- : 避難時集結場所
- : 安定ヨウ素剤配布場所
- : 避難退域時検査場所
- : 広域避難先
- : 放射線防護対策施設

大規模防災訓練の実施結果について

平成 28 年 9 月 8 日
 京都府 災害対策課
 電話 075-414-4472
 京都府 原子力防災課
 電話 075-414-5614

京都府では、大規模地震や豪雨災害、原子力災害等を想定した防災訓練を毎年実施しており、本年8月下旬から9月上旬にかけて2回の大規模訓練を実施しましたので、その結果についてお知らせします。

特に、8月27日（土）には、初めて内閣府及び3府県（京都府、福井県、滋賀県）及び関西広域連合が合同で訓練を実施し、住民や防災業務従事者など約9,000人が参加しました。

訓練実施の結果、悪天候時の避難経路や検査会場の混雑など、課題も見受けられましたので、今後、国及び関係市町とも連携して対策を進めるとともに、国の検証結果に基づく広域的な課題についても速やかに対応し、避難計画の更なる実効性の確保を図ることとします。

内閣府・3府県及び関西広域連合合同原子力防災訓練 <平成28年8月27日（土）実施>

1 京都府内の主な訓練内容

- (1) 原子力災害対策本部等運用訓練（京都府庁、高浜オフサイトセンター）
- (2) 避難退域時検査・除染訓練（丹波自然運動公園）
- (3) 緊急時モニタリング訓練（舞鶴・綾部市域での走行サーベイ）
- (4) 住民への安定ヨウ素剤緊急配布訓練、住民避難訓練（丹波自然運動公園へ）
- (5) 広域避難訓練（丹波自然運動公園→八幡市民体育館）
- (6) 避難行動要支援者避難訓練（舞鶴市内、府災害時要配慮者避難支援センター）
- (7) 放射線防護対策設備稼働訓練（舞鶴市・綾部市・伊根町内施設）
- (8) 京都府原子力防災専門委員による講習会（丹波自然運動公園）

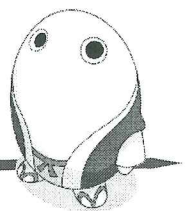
2 訓練参加者数 約9,000人（行政機関等約150機関を含む。）

区 分		京都府	福井県	滋賀県	内閣府	関西広域
住民参加者	避難	約400人	約800人			
	屋内退避	約2,900人	約2,900人			
小計		約3,300人	約3,700人			
防災業務従事者		約500人	約1,300人	約125人	約35人	約70人
計		約3,800人	約5,000人	約125人	約35人	約70人

<訓練での課題>

- 悪天候により船舶避難ができなかったことから、複数の避難方法や避難経路を設定することが必要。
- 避難退域時検査場所が、丹波自然運動公園1カ所であったことから、避難バス車両が一時的に集中し、車両除染や避難者の除染等に時間を要した。検査会場のスペース確保や避難車両の受入体制強化、必要な資機材の確保などを検証することが必要。
- 安定ヨウ素剤の配布に際して一部地域で配布時の説明に時間を要した。訓練を重ねることや広報紙等により住民への周知が必要。
- 広域避難先市町における受入体制について引き続き検証。

<今後の方針>



国は、半年後を目途に訓練の評価結果を避難計画に反映させたいとしている。京都府としては、今回の課題を踏まえ、国及び関係市町とも連携して対策を進めるとともに、広域避難やスクリーニングなど広域的な課題についても速やかに対応できるよう、更なる実効性の確保を図ることとする。

平成 28 年度京都府総合防災訓練 <平成 28 年 9 月 4 日（日）実施>

1 主な訓練内容

- (1) 災害対策本部会議（京都府庁）
- (2) 地震・水害対応訓練（園部公園スポーツ広場・陸上競技場ほか）
- (3) 原子力災害対応訓練（丹波自然運動公園、南丹市内）
- (4) 広域防災活動拠点運用訓練（丹波自然運動公園）
- (5) 地域防災訓練（南丹市、亀岡市、京丹波町）

2 訓練参加者数 約 1, 0 0 0 人（行政機関等約 7 0 機関を含む）

- 地震、水害及び原子力の複合災害の発生を想定した訓練を一体的に実施
- 関東・東北豪雨時の災害対応を教訓にヘリコプターによる偵察、救出・救助訓練等を実施
- 本年 8 月から京都府が導入した無人航空機（ドローン）を府職員が飛行操作し、タブレット端末に情報伝達を行う訓練を実施
- 熊本地震から得た教訓を踏まえ要配慮者、女性、外国人及びペット同行に対応した避難所運営訓練を実施

<訓練での課題>

- 複合災害について様々な想定とシミュレーションを行うことが重要。
- 土砂災害や水害などでは、人命救助のための初動体制が重要であり、市町村や地元消防団との連携が重要。
- 避難所において、要配慮者、女性、外国人、ペット同行などきめ細やかな受け入れができるよう更に検証が必要。

<今後の方針>

初動で大きな役割を果たす市町村や地元消防団とともに、自衛隊や警察など関係機関と連携した訓練を重ね、対応が難しい複合災害などあらゆる事態に備える。

タブレット端末を使用した情報伝達の有用性が実証できたことから、リアルタイムでの情報共有による迅速な意思決定を行うため、引き続き積極的な活用を行うこととする。

避難所運営について、きめ細やかな受け入れができるよう、市町村や関係機関と連携しながら検証を進めることとする。

ニュース

「渋滞」「人員」課題山積み 高浜原発 広域避難訓練

高浜原発(福井県高浜町)の重大事故時、30キロ圏の住民約18万人は避難できるのか。広域避難計画の政府了承から8カ月、実効性を検証する初の訓練が27日行われた。京都府内では舞鶴、綾部、宮津、福知山、京丹波の5市町の住民が参加。実際には自家用車利用も多いとみられ、渋滞による避難の遅れに懸念も。要配慮者への支援や不測の事態への対応に不安の声も出た。

■要配慮者対応に不安

舞鶴市中田の平保育園の園児たちは口にハンカチを当て、不安な表情で保育士と歩いて避難時集結場所の大浦小に向かった。園児には原発からの放射性物質放出を「怖い空気が流れている」と伝えた。澤江美樹園長は「保護者は共働きがほとんど。子どもの引き渡しは十分にできない。乳児たちを両手に抱え避難しないと」と不安を口にした。

近くのまいづる作業所からは利用者と職員が避難。車椅子利用者がいることから、訓練当日に徒歩から自動車に変更した。泉伸也施設長は「スロープや洋式トイレがないと障害者は避難所で生活は難しい」。同行した佛教大福祉教育開発センターの後藤至功講師は地震や津波で想定する道路が使えない恐れもあり、「障害施設者へは安定ヨウ素材の事前配布が望ましい」と指摘した。地震による道路寸断を想定して同市成生から船で避難する訓練は悪天候で中止された。

同市大波下の東舞鶴医誠会病院では、府庁(京都市上京区)の府災害時要配慮者避難支援センターと避難に必要な車両などの情報伝達を訓練。放射性物質吸入を抑えるため患者が窓から離れるなど屋内退避時の行動と、患者の移送手順を確認した。252人が入院するが自力で歩けるのは78人で、他は車椅子やストレッチャーが必要。藤村健也総務課長(46)は「メールと電話が同時にありスムーズだったが、いずれも遮断されたとき対応を考えなければ」、梅原敏子看護部長(62)は「高齢患者が多く、長期の屋内退避は難しい」と話した。

綾部市では初の安定ヨウ素剤の配布訓練。奥上林地区睦寄町から住民約90人が避難し、ヨウ素剤を分散備蓄する上林いきいきセンターに立ち寄り、車内で保健師がヨウ素剤に見立てたあめを配布、副作用などの注意点を説明した。訓練後、高浜町で山崎清吾副市長は「避難車両の運転員確保、交通渋滞、安定ヨウ素剤の配布体制に対策が必要」と話した。

京丹波町曾根の府丹波自然運動公園には、5市町から住民を乗せたバスが次々と入った。バスは放射性物質を感知するゲートを通過し、防護服に身を包んだ自衛隊員がシャワーで洗い流した。住民もバスから降りて検査を受けた。綾部市睦寄町の自動車販売業大田耕平さん(60)は「流れは分かったが、参加は住民の一部。渋滞で避難が遅れないか心配」と話した。約200人の検査に約2時間かかった。バス車内で待たされた住民もあり、府原子力防災課の松村嘉文理事は「広い会場の確保や人員配置など検証すべき点は多い」と課題を示した。



【上】ハンカチで口元を覆い、手をつなぎながら避難する保育園児ら(舞鶴市中田)

【中】訓練で住民に放射性物質が付着していないか測定する放射線技師(京丹波町・府丹波自然運動公園)

【下】避難時に持ち出す患者のカルテを詰める職員(舞鶴市大波下・東舞鶴医誠会病院)

【2016年08月27日 22時40分】

Copyright (c) 1996-2016 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd. All rights reserved.

各ページの記事・写真は転用を禁じます。著作権は京都新聞社ならびに一部共同通信社に帰属します
ネットワーク上の著作権について 新聞・通信社が発信する情報をご利用の皆様へ(日本新聞協会)

原発避難訓練 検証重ね実効性向上を

関西電力高浜原発(福井県高浜町)での過酷事故を想定した国と福井、京都、滋賀、兵庫の各府県などによる広域避難訓練が行われた。

昨年12月に政府が了承した広域避難計画を確認するため、初めて実施された。明らかになった課題を検証し、住民の安全確保に向けて計画の実効性を高めてもらいたい。

訓練は若狭湾沖で震度6弱以上の地震が発生し、高浜原発から放射性物質が放出されたと想定。約150の関係機関や原発30キロ圏の住民ら約9千人が参加した。

福井県からは住民約230人が兵庫県の宝塚市などへ最大約130キロ、県外避難した。渋滞など大きな混乱はなかったが、自家用車で避難するはずの住民が公用車に同乗するケースが多かった。自治体が事故を懸念したため、本来の計画とは異なる。

高浜原発で過酷事故が起きた際の最大避難者数は約18万人と見込まれている。京都府内を通る舞鶴若狭自動車道や国道27号などで東京電力福島第1原発事故後のような渋滞が起きることを想定し、より実践的な訓練をすべきではないか。

国の原子力災害対策指針では重大事故時、原発5キロ圏の住民は即時避難し、5～30キロ圏は屋内退避して放射線量が上がれば避難する「段階避難」を前提とする。

今回の訓練では、宮津市の住民が屋内退避した後、バスに乗って京都縦貫自動車道を経て避難中継地の丹波自然運動公園(京丹波町)に移動。被ばく検査を受けて除染を体験し、さらに八幡市の八幡市民体育館まで避難した。

しかし、震度7を2回観測した4月の熊本地震では、16万棟以上の家屋が損壊した。大規模災害時に使われる緊急輸送道路も被害を受けた。

巨大地震で原発事故が発生した場合、安全に屋内退避できるのか。道路の寸断や渋滞によって段階避難が困難となる事態にも備えなければならない。

福島事故の発生から間もなく5年半となるが、いまでも多くの住民が福島県内外に避難している。原発の過酷事故では長期にわたる避難を強いられることも考えておく必要がある。

今年1、2月に相次いで稼働した高浜3、4号機は、大津地裁の仮処分決定で運転を停止している。関電は再稼働を目指しているが、国や自治体が避難計画に不十分な部分がないか精査して改善することこそ優先すべきだ。

[京都新聞 2016年08月31日掲載]

バックナンバー

2016年9月

2016年8月

- [もんじゅ見直し](#)
- [原発避難訓練](#)
- [「共謀罪」法案](#)
- [日韓通貨交換](#)
- [原発停止要請](#)
- [共生社会の教育](#)
- [アフリカ支援](#)
- [文化庁移転計画](#)
- [沖縄振興予算](#)
- [駆け付け警護](#)
- [パラリンピック](#)
- [日中韓外相会談](#)
- [捕鯨妨害禁止](#)
- [自民の総裁任期](#)
- [給油所の過疎](#)
- [リオ五輪開幕](#)
- [京都の観光新税](#)
- [核兵器禁止条約](#)
- [被選挙権年齢](#)
- [台風に備える](#)
- [甘利氏の責任](#)
- [措置入院の検証](#)
- [ホーム転落事故](#)
- [児童虐待最多](#)
- [核の先制不使用](#)
- [シールズ解散](#)
- [大学と軍事研究](#)
- [活断層長期評価](#)
- [新国立公文書館](#)
- [マイナス金利](#)
- [終戦の日に](#)
- [戦没遺骨の帰還](#)
- [伊方原発再稼働](#)
- [就活日程](#)
- [三菱自動車報告](#)
- [iPS細胞10年](#)
- [焼死再審無罪](#)
- [タイの新憲法案](#)
- [尖閣に中国公船](#)
- [熱中症](#)
- [陛下のお気持ち](#)
- [警察の隠し撮り](#)
- [農地の集約](#)
- [中高年の山登り](#)
- [原爆の日](#)
- [五輪の種目追加](#)
- [リオ五輪](#)
- [美浜3号機延長](#)
- [安倍内閣改造](#)
- [防衛白書](#)
- [岡田代表退任へ](#)
- [慰安婦財団発足](#)
- [小池新都知事](#)

高浜原発の広域避難訓練始まる 住民ら1300人が参加

神元敦司 2016年8月27日12時01分



原子力事故を想定した広域避難訓練で、スクリーニングを受ける高浜町から来たバス＝27日午前、京都府綾部市、遠藤真梨撮影



関西電力高浜原発（福井県高浜町）の重大事故を想定した広域避難訓練を27日、原発から30キロ圏にかかる福井、京都、滋賀3府県や内閣府などが実施した。国の原子力防災会議が昨年12月に了承した避難計画の実効性を確かめるのが目的。マイカーでの避難が基本だが、参加者の多くが用意されたバスに乗り、マイカーでの参加は約30台にとどまった。

高浜原発の0～5キロ圏には高浜町と京都府舞鶴市の一部が入る。30キロ圏は福井、京都、滋賀3府県の12市町にまたがり、約17万9千人が暮らす。計画では事故の状況に応じて福井県民と京都府民が兵庫県や徳島県に広域避難する。

この日の避難訓練には、福井県と京都府の計約1300人が参加。府県境をまたぐ

広域避難では、福井県の高浜、おおい両町から約240人が100キロ以上離れた兵庫県三田、宝塚両市などへ舞鶴若狭自動車道を経由して向かった。ただ、大半が関電などが用意したバス約10台で避難した。5～30キロ圏の約85人は京都府綾部市内で放射能汚染検査（スクリーニング）も受けた。

福井県美浜町では、スクリーニングに多くの車が集中した場合の訓練、高浜町では、家屋が倒壊して屋内退避できない住民を安全な指定避難所に誘導する訓練もあった。（神元敦司）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

高浜原発

避難訓練 住民「実際の時にうまくいくのか」

毎日新聞 2016年8月27日 13時13分 (最終更新 8月27日 22時01分)



関西電力高浜原発の事故を想定した広域避難訓練で、海上保安庁のヘリに乗り込む住民たち＝福井県高浜町で2016年8月27日午前9時31分、久保玲撮影

孤立予想地区 天候不良で一部のヘリ輸送訓練は取りやめに

関西電力高浜原発（福井県高浜町）での過酷事故を想定した広域避難訓練は、30キロ圏内にある学校や病院、福祉施設、家庭で、27日午前8時ごろから順次始まり、住民らが真剣な面持ちで参加。「実際の地震発生時にうまくいくのだろうか」との不安の声も聞こえた。

高浜原発周辺には、道路事情で非常時に孤立する恐れのある地区も多く、ヘリや船も訓練に導入された。内浦半島にある高浜町音海地区は

約140人が居住。半島の根元に原発があるため、陸上から避難するのは困難で、ヘリや船を使うしかない。

「(プロペラの) 風に注意してください」

午前9時半、小雨が降る中、原発の北約1.5キロに位置する関西電力のヘリポートでは、住民と町職員計2人が海上保安庁の隊員の指示を受け、ヘリに乗り込み避難した。

天候不良のため一部のヘリや船の輸送訓練は取りやめに。同地区で旅館を営む児玉巧さん(69)は「大雨や雪も降る。気候や風土を知る私たちからすれば、避難訓練の実効性は疑問だ」と首をかしげた。

福井県美浜町役場では午前11時前から、避難住民や車の放射線量を測定するスクリーニングが実施された。

原発に近い同県小浜市やおおい町から避難した住民が乗るバスや乗用車が続々と到着。放射線量を測定する「ゲート型モニター」を通過し、検査を受けた。一部の参加者は、放射線が検出された想定で、車から降ろされ、追加の検査を受けた。スクリーニングを受けた同県若狭町の介護士の橋本朋美さん(53)は「今回はスムーズだったが、実際にはもっと多くの人が避難するはず。バスが手配できるか不安だ」と話した。

原発周辺には迂回（うかい）路のない場所も多く、道路が地震による土砂災害で封鎖されると避難に支障が出る。原発の西約5キロの高浜町宮尾地区では、倒木で県道が通行できなくなる複合災害を想定し、陸上自衛隊が障害物を排除する訓練を実施。隊員らが午前9時すぎから、道路脇の崖の前でパワーショベルを使い木の枝を除去した。

自衛隊の担当者は「順調に訓練できたが、実際には重機が現場に入れない状況も考えられる。車両の誘導に人員を割く必要性も感じた。迅速に対応できるよう備えたい」と話した。
【立野将弘、高橋一隆、竹内望】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.

トピック 原発問題

高浜原発で広域避難訓練

9千人参加、周辺4府県



2016/8/27 11:58

関西電力高浜原発(福井県高浜町)で過酷事故が起きたとの想定で、広域避難訓練が27日、実施された。国や福井、滋賀、京都各府県と、兵庫県を含む関西広域連合の主催で、昨年12月に政府が了承した広域避難計画の実効性を確認するのが狙い。約150の関係機関や原発30キロ圏の住民ら約9千人が参加し、このうち福井県の約240人が兵庫県に避難。国内の原発訓練での県外避難者は最大規模となる。



高浜原発の過酷事故を想定した広域避難訓練で、県外避難のためバスに乗り込む住民=27日午前、福井県高浜町

福井県によると、4府県が絡む訓練は初めて。県外避難者は行政の車両やバスで兵庫県の宝塚市や三田市、丹波市まで最大約130キロ移動。住民の参加は福井、京都の計約7150人に上る。

FREETEL
SIMフリースマホ
夏のクリアランスセール
数量限定 最大 40% OFF
SALE!!
今すぐチェック>

5 シェア 見る 0 ツイート ブックマーク

トピック 原発問題

47 NEWS
共同通信
原発事故時の協力で合意
東電と東北電、避難支援
2016/9/15 17:17

47 NEWS
共同通信
鋼材不純物が基準超え、仏原発
日本製設備、強度不足疑いで調査
2016/9/14 13:47

伊方原発の事故時対策拠点を視察
山本原子力防災担当
2016/9/14 11:18

このトピックを見る

あなたにおすすめ

高浜原発で広域避難訓練 住民100キロ超移動

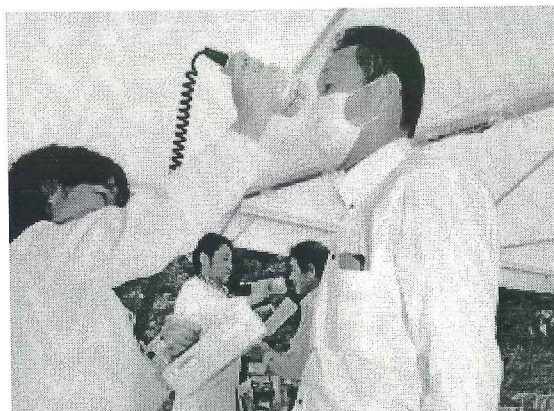
2016/8/27 8:34 (2016/8/27 11:53更新) | 日本経済新聞 電子版

関西電力高浜原子力発電所（福井県高浜町）の重大事故を想定した広域避難訓練が27日午前始まった。政府や福井県、周辺自治体などが連携し、現場の対応や関係各機関の連絡体制を検証するのが目的だ。住民約7000人が参加した。原発から半径5～30キロ圏（緊急防護措置区域＝U P Z）内の住民が県外に避難する全国初の訓練となる。

午前6時、若狭湾沖で発生した地震で高浜3号機が冷却機能を喪失、放射性物質が放出された事態を想定した。政府や福井県、京都府、滋賀県などは住民に安定ヨウ素剤に見立てたあめを配布したりスクリーニング（放射線量検査）を実施したりした。

福井県と京都府の住民約1300人が実際に避難し、このうち福井県の240人が京都府経由で100キロ以上離れた兵庫県の避難先にバスや自家用車で移動した。約5850人は自宅や避難所など屋内に退避した。午前8時半に高浜小学校（高浜町）の6年生約40人がバスに乗り込み、兵庫県丹波市の丹波の森公園に向けて出発した。

政府と関係自治体が昨年12月に策定した広域避難計画に基づく初めての訓練。日程調整に時間がかかり、計画策定から8カ月たってようやく実現した。高浜原発は3、4号機が一度再稼働した後、司法判断で今年3月に停止した。1、2号機は運転延長が認可されたが、安全対策に3年程度かかる見込みだ。



高浜原発の事故を想定した避難訓練で、隣接する京都府でスクリーニングを受ける福井県の住民（27日午前、京都府綾部市）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI Nikkei Inc. No reproduction without permission.

福井

2016年8月26日

福祉施設から不備指摘 原発事故広域避難計画

県は二十五日、福井市の県生活学習館で、社会福祉施設を対象に原発事故時の避難説明会を開いた。避難する施設と受け入れ先の施設の担当者が初めて顔を合わせ、意見を交わした。広域避難計画の不備を指摘する声も上がり、二十七日の訓練を前に課題も浮かび上がった。

「（指定された）受け入れ先の設備を見ると、避難するのは困難。計画自体に問題がある」。県の説明に続く質疑応答で、出席した男性が厳しい口調で問いただした。受け入れ先は施設の形態が違い、十分なケアができないとの指摘に対し、県の担当者は「別の避難先も検討する必要がある」と、組み合わせの見直しを示唆した。

県によると、事故時に避難が必要となる各原発から三十キロ圏内の施設は嶺南を中心に九十七カ所。入所者は四千三百人に上る。県は二〇一四年三月、受け入れ先として二百七十一カ所を指定した。

意見交換では、ほかにも問題が浮上した。越前市の施設の担当者は、移送手段がワゴン車しかなく、入所者全員を避難先となる福井市の特別養護老人ホーム（特養）に運ぶには二十往復しなければならないことを明かした。

これに対し、受け入れ側の特養の生活相談員佐々木理孝さんは「できる限りの手伝いはしたいが、勝手なことをすると命にかかわる」と悩みを打ち明けた。佐々木さんは今回の顔合わせに意義を見出した上で「計画は具体性に欠ける。これから話す中で課題は浮き彫りになってくる」と話した。

説明会は、関西電力高浜原発（高浜町）での事故を想定した二十七日の広域避難訓練を視野に実施。今回は福井市や越前市、敦賀市などから百四十四施設が出席した。

（高橋雅人）